



会報

2011. No.5

小安協 ニュース

助成  日本財団
The Nippon Foundation

- 海の日表彰
- 被災地に調査隊を派遣
- まめ知識
『タスケ帯!!』の制作
津波について

公益社団法人 関東小型船安全協会

〒231-0011 横浜市中区太田町4-47コーワ太田町ビル8階
Tel.045-201-7754 Fax.045-201-7758
E-mail:ksak@d5.dion.ne.jp
URL:http://www.shoankyo.or.jp

がんばろう! 日本

震災から6ヶ月を経て
被災地の港にもサンマ、サバ、カツオ等の水揚げ
が始まり、復興の一步を歩み出しました。
一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。



 ボートレース贈り物
ファンからの

おめでとうございます

海上安全指導員の表彰：

平成23年7月18日（第16回）海の日

海洋レジャー事故の未然防止及び健全な発展を図るために、ボランティアとして長年にわたって海上保安業務に協力し、多大な貢献をされた功労者として、次の通り関東小型船安全協会の海上安全指導員の方々が表彰されました。



『国土交通大臣表彰』（順不同）

矢作喜三郎（主任海上安全指導員）
浅野悦男（主任海上安全指導員）
坂本正治（海上安全指導員）
稲葉文則（海上安全指導員）

『第三管区海上保安本部長表彰』（順不同）

佐野啓介 西海尊志
中村源兵衛 藤田昌弘
貝森秀一
堀善太郎

『海上保安庁長官表彰』（順不同）

小泉進 小川治
杉浦匡 白井潔水

『海上保安部長表彰』（順不同）

池田実（清水海上保安部長）
長谷川浩三（横須賀海上保安部長）
阿部和博（横浜海上保安部長）

■東日本大震災に調査隊を派遣

当協会では、東関東地区（茨城、千葉）の被災状況調査を平成23年4月8日に実施しました。

主任海上安全指導員 矢作喜三郎（当協会理事）、同じく佐野啓介（当協会東京支部長）のご両名を銚子マリーナ、銚子マリクラブ、大洗マリーナ及び飛鳥マリーナの4施設に派遣し、被災のお見舞いを述べると共に被災状況を伺ってきました。

●銚子マリーナ

正確な数字ではないが150隻ぐらいあった船が現在（調査時）60隻程度しか見えない、浮き桟橋が没しているので船の調査はできないが大半が流出した、被害の甚大さに言葉が出なかった。

●銚子マリクラブ

事務所などが発見できず、関係者との面談ができなかったが係留場所を確認したところ、船舶の被害はなかったように見受けられる。

●大洗マリーナ

マリンセンターハウスは20センチほどの浸水で無事だったが、海側にあった受電設備が被害を受け電源復旧のめどが立たない。

陸置き船は船台から浮き上がり津波が引いた後、すべてが横転した。

●飛鳥マリーナ

同マリーナは基本的にマリーナ事業を休止しているため、保管艇なし。

河川係留のボートも無事、桟橋が流出した程度の被害であった。

これを受けて、当協会として、会員様所有艇の被害状況の調査を実施しましたところ、茨城支部及び千葉外房支部で19隻が被害を受けました。

平成23年度の第1回理事会(5月24日)において被害状況を報告し、検討した結果、被害を受けられた方々には、今年度の会費を免除することとなりました。

既に平成23年度の会費を納入されている方々は平成24年度の前受会費として処理を致しました。

心ばかりのお見舞いではございますがご理解の程よろしく申し上げます。



派遣隊の車両



被害状況

■平成 23 年度通常総会の概要

- 1、日 時 平成 23 年 5 月 24 日（火）（午後 3 時 30 分～午後 4 時 30 分）
- 2、場 所 ワークピア横浜「かもめ・やまゆり」の間（横浜市中区山下町）
- 3、出席正会員数

出席正会員 67 名（委任状提出正会員 490 名）

4、議事の経過概要

【議案 1】

重要事項の報告

このたび公益社団法人として認定され、平成 23 年 4 月 1 日付で「社団法人関東小型船安全協会」を解散し、「公益社団法人関東小型船安全協会」を設立及び公益財団法人日本財団から平成 23 年度助成金額 3,960 千円が決定した旨の説明を行いました。

【議案 2】

(1) 平成 22 年度事業実施報告及び収支決算報告

(2) 監事の会計監査報告

異議なく全員一致で承認されました。

【議案 3】

平成 23 年度事業計画及び収支予算

平成 22 年度度の事業計画に加え会員による東京湾内の輻輳する船舶交通の状況確認及び特定地点予測情報（港湾天気予報、波浪ポイント予測）の活用等の新規事業、及び日本財団助成金額 396 万円を含む 総額 14,425 千円の昨年度より会費収入を少なめの収支予算が第 1 回理事会にて承認された旨の報告を行いました。

異議なく満場一致で了承されました。

【その他】

(1) 無線会費の見直しについて

平成 22 年度理事会からの継続審議であった国際 VHF の導入に伴う、無線会費の見直しについて、第 1 回理事会にて承認され、平成 24 年度無線会費から、実施することとなりました。

会費規程の修正

入会金及び会費規程第 4 条の 2

前条各号の会員が所有し、又は管理する船舶に船舶局を備える場合には、船舶局 1 局につき次のとおり、無線会費を付加する。

- (1) 正会員が所有する艇については、年額 3,000 円
- (2) 正会員が管理する艇については、年額 5,000 円

* 現行の入会金及び会費規程第 4 条の 2

前条各号の会員が所有する船舶に船舶局を備える場合には、船舶局 1 局につき年額 5,000 を上記金額に付加する。

(2) 永年会員表彰について

平成 23 年度から個人会員の永年会員表彰に加えて、団体及び賛助会員の表彰が実施され、事務局から本年度の候補者について説明をいたしました。

(3) 東日本大震災での小型船被害状況と対応について

今回の東日本大震災の被害状況調査についての調査報告がなされた後、第 1 回理事会にて、茨城支部及び千葉外房支部の船舶に被害のあった個人会員 19 名の平成 23 年度の個人会費を免除とすることとなりました。

この後、本通常総会を利用して、第三管区海上保安本部交通部から「海の全情報メール配信について」の説明がなされ、最後に、来賓の第三管区海上保安本部長のご挨拶をいただきました。



■活動状況

●安全講習会

今年度は4月初めのマリーナヴェラシス（4月2日）での安全祈願祭・安全講習会を始まりに、サニーサイドマリーナ（4/17）、横浜ベイサイドマリーナ（4/17）、東京夢の島マリーナ（5/22）、浦安マリーナ（5/29）、千葉オーシャンヨットクラブ（6/5）、伊豆支部（6/9）、横須賀マリン協会（6/12）、東京支部（6/12）、横須賀支部（6/18）、しみず支部（6/22）、千葉支部（6/25）、東京湾マリーナ（6/26）、横浜ヨット協会等14か所で安全講習会を実施しました。また、各イベントでもお子さんを対象にした安全講習会が開かれました。

今年度の講習では⁽¹⁾中村医師、⁽²⁾小川敦氏をお招きし、中村医師による、蘇生及びAEDの取り扱い実技等、また、小川敦氏による講和（クルージングへの誘いと船上でのトラブルシューティングと対処法等）をお願いしました。

(¹)中村 幸伸医師 葛飾つばさ医院院長 (²)小川 敦氏 湾奥クラブ主宰



安全祈願祭(マリーナヴェラシス)



サニーサイドマリーナ



東京夢の島マリーナ(タスケ帯)



横須賀支部



伊豆支部



千葉支部(小川敦氏)



横須賀うみかぜカーニバル



横浜港 ポート天国 安全活動



横浜港ポート天国真夏の大会



清水マリンフェスティバル

●安全活動

今年も各地のイベントに参加しました。

- ・横須賀うみかぜカーニバル 2011
(7/16、17) 横須賀支部
- ・スバルザカップヨットレース (7/17)
千葉・東京・横浜支部
- ・横浜港ポート天国 (7/10、8/14) 横浜支部
- ・清水マリンフェスティバル (7/17) 清水支部
- ・清水みなと祭り海上花火大会 (8/7) 清水支部
- ・網代の海を食べてちょうぞ 2011 (8/7) 伊豆支部
- ・グリーントライアスロン (8/20) 横浜支部

●海洋学習と体験乗船会

マリンスポーツの楽しさ、身近な海を楽しむ、海の安全を啓発しながら、夏休み地域学童体験航海を各地で実施しました。

- ・横浜港ポート天国（7/10、8/14）
- ・海の日 海の安全運動（7/18）
- ・横須賀うみかぜカーニバル（7/16、17）
- ・清水マリンフェスティバル（7/17）
- ・網代の海を食べちゃうぞ 2011（8/7）



横須賀体験乗船待ち 海洋学習



横須賀体験乗船 水上バイク



横須賀安全教室



海の安全運動 八景島 体験乗船

●海保との合同訓練

今年度も東京のほか、7か所で合同訓練が実施されました。東京海上保安部から簡単に作れる簡易救命具『タスケ帯!!』の実技訓練も行われました。



浜名湖 合同パトロール



出動式 (横浜・横須賀)



安全指導 (富津)



安全指導(千葉支部)



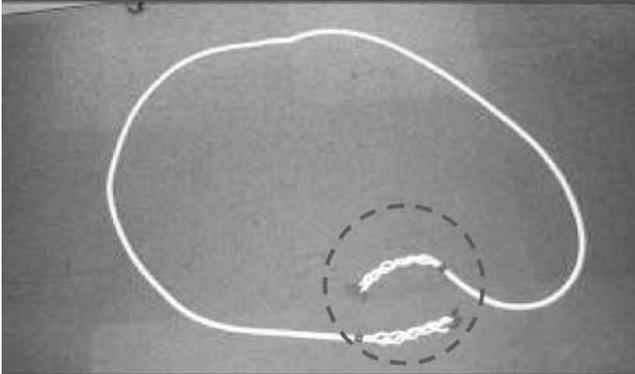
落水者揚収訓練

まとめ知識◆◆◆

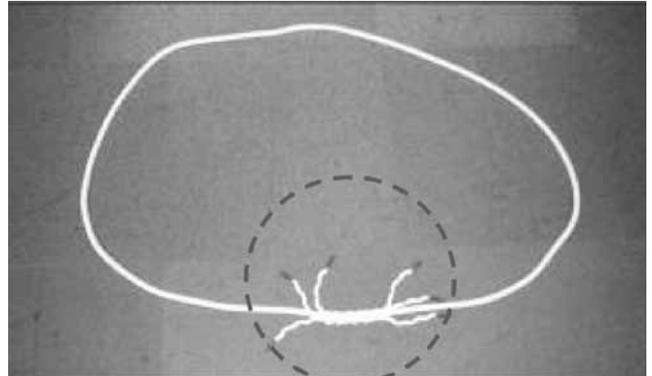
『タスケ帯!!』救助用簡易吊り具(スリング)の作り方

(材料: 太さ20mm程度のロープ3.5m、クッション材(ポリエチレン製の水道管保温材等)1m×2、カラビナ)

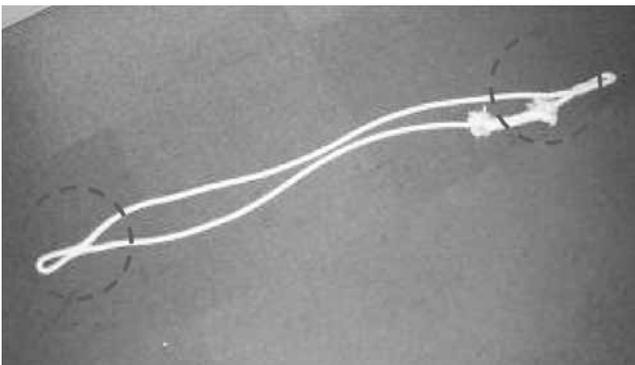
①環状になるように両端をショーツプライスで結ぶ。



②両端をショーツプライスで結んだ状態。



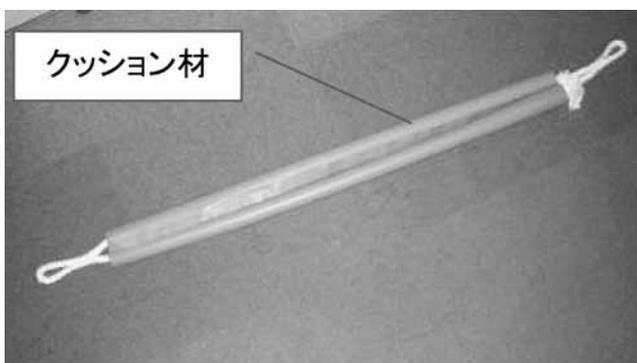
③ロープを二重にして、両端が輪になるように加工する。
(④参照)



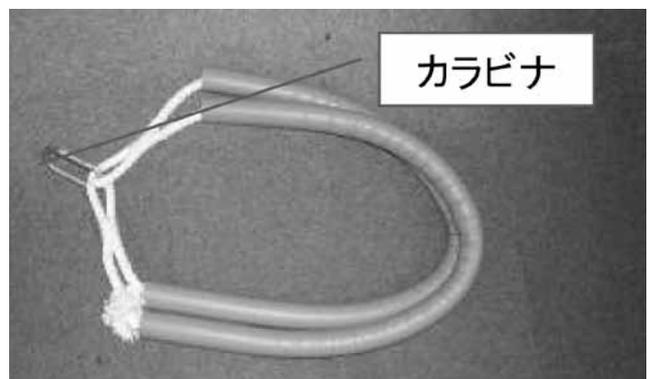
④端は、太さ5mm程度の細索を巻き付け、輪になるように加工する。



⑤それぞれのロープにクッション材を巻き付ける。

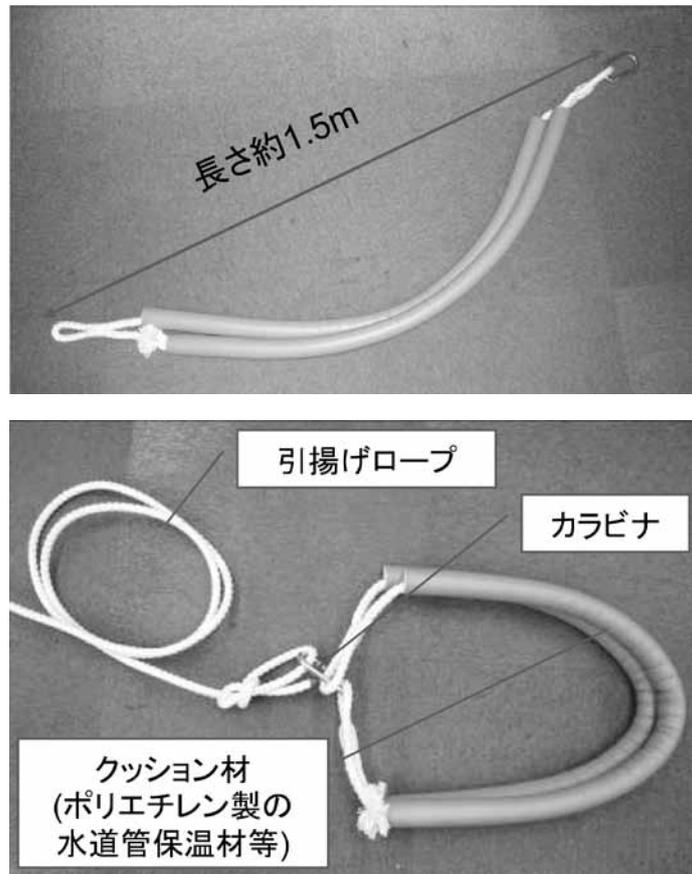


⑥カラビナを取付け完成。



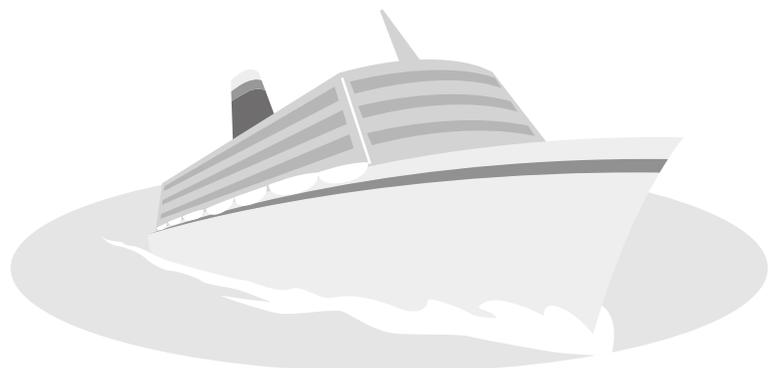
『タスケ帯!!』救助用簡易吊り具（スリング）

（「たすける輪!!」改良版）



- ・ この『タスケ帯!!』救助用簡易吊り具（スリング）は、太さ 20mm 程のロープを二重にし、両端を細索でアイ加工を施した長さ 1.5m 程のロープに、浮力とクッション性を持たせるため、クッション材（ポリエチレン製の水道管保温材等）を巻きつけたものです。
- ・ 使用する際は、右写真の様に両端のアイをカラビナで結合し、引揚げロープを結索しておきます。
- ・ 今回紹介する『タスケ帯!!』は、前回紹介した「タスケル輪!!」の改良版で、ロープを二重にして救助者への負担を軽減しており、より作り易いものになっています。材料は、「タスケル輪!!」と同様にホームセンター等で安価に揃いますので、船に用意しておくことをお勧めいたします。

※ ロープが二重になり、帯状になったことから、『タスケ帯!!』と名が付けました。



■津波について

1、津波の起きる条件

- (1) 震源が海底下であること。
- (2) 震源の深さが80km*より浅いこと。(*50kmという説もあり。)
- (3) 地震規模がマグニチュード6.5以上であること。
特に7.5以上になると大津波になる。

*今回の地震：牡鹿半島東南東130km、震源の深さ24km、M9.0

2、津波の速さ

(1) 外洋

$$V = \sqrt{dg}$$

V：速力 (m/sec) d：水深 (m) g：重力加速度 (9.8m/s²)

*水深4000mで710km/h ≒ ジェット機

*水深1000mで360km/h ≒ 100m/s

*水深500mで250km/h ≒ 新幹線

(2) 沿岸

$$V = \sqrt{(d + H)g}$$

H：津波の高さ (m)

*水深10m、津波の高さ6mで45km/h ≒ 12.5m/s ≒ 自動車

3、津波の高さ

(1) 津波の高さと波浪の高さの違い

波浪の高さは、波頂と波底との差であるが、津波の高さは、通常予想される水位との差である。

(2) 外洋

外洋では津波の高さは数10cmから2～3m程度で、波長は100kmを越えるので、海面の変化は極めて少ない。

(3) 沿岸

津波が陸地に接近して水深が浅くなると、速度が落ちて波長が短くなり波高は大きくなるが、通常は単に水深が浅くなっただけでは極端に大きな波高とはならない。しかし、リアス式海岸のようにV字型に開いた湾の奥では非常に高い波となる。

*津波の高さは水深の4乗根と水路幅の2乗根に反比例する。

湾口で水深160m、幅900m、高さ1mの津波が押し寄せ、湾内の水深10m、幅100mの所に達した場合、波高は水深の減少で2倍、水路幅の減少で3倍になるため、合わせて6倍の6mとなる。

参考資料

*「津波の基礎知識」(津波が来る！そのときあなたは (日本海難防止協会 2004年冬号))

*ウィキペディア「津波」



■新入会員ご紹介

平成 23 年 4 月以降次の方々が入られましたのでご紹介いたします。(敬称略)

番 号	氏 名	所属団体	番 号	氏 名	所属団体
横浜支部			横須賀支部		
2323	井上 敦	横浜ベイサイドマリナー	2322	(株) コンチネンタル	湘南サニーサイドマリナー
2332	家田 成大	横浜クルージングクラブY・C・C			
2333	大野 俊也	横浜クルージングクラブY・C・C	東京支部		
2336	堀切 健司	横浜ベイサイドマリナー	2320	竹下 則之	SKC マリナー
2337	(株) リバティ	個人			
伊豆支部			しみず支部		
2324	森 和志	伊豆小型船安全協会	2321	(株) エクセレント・ライフ	折戸マリナー
2325	鈴木 学	伊豆小型船安全協会	横須賀支部		
2326	山本 寿哉	伊豆小型船安全協会	2322	(株) コンチネンタル	湘南サニーサイドマリナー
2327	高柳 宏人	伊豆小型船安全協会			
2328	佐藤 信吾	伊豆小型船安全協会	団体会員		
2329	山本 雄太郎	伊豆小型船安全協会	80016		堂ヶ島マリン (株)
2330	磯谷 利治	伊豆小型船安全協会			
2331	勝呂 拓也	伊豆小型船安全協会	賛助会員		
			20036		鹿島建設 (株)
千葉支部					
2334	羽山 敏雄	NPO 館山外洋ヨットクラブ			
2335	山口 弘之	NPO 館山外洋ヨットクラブ			

平成 23 年 8 月 30 日現在会員数

個人会員：846 名 団体会員：49 団体 賛助会員：37 団体

■事務局だより

●会費納入のお願い

- (1) 平成 23 年度会費をまだ納入されておられない方は、お手数ですがご納入頂きたくよろしくお願い申し上げます。
- (2) 新規入会会員の下半期入会 (10 月から翌年 3 月まで) の場合は年額の半額。

●子供たちを水の事故から守ろう！

この運動は、欧米諸国に比べ人口比に対する溺死者の割合が非常に高い我が国において、子供達に「水の安全教育」を通じて“水の事故ゼロ”を目指すというものです。平成 22 年 3 月に日本財団、日本セーリング連盟等関係 7 団体が発起人となり、“Water Safety Nippon” (WSN、事務局 B&G 財団) という組織を立ち上げました。WSN では、この運動に協力するパートナー (団体) とサポーター (個人) を募集しているところから、日頃から安全教室等行っている当協会としても、その趣旨に賛同し、パートナーとして登録させていただきました。

本協会員の積極的な参加をお願いします(会費無料)!!

サポーター(個人会員)募集中!!

安全運航の基本

1. 無理のない航海計画をたてましょう。
2. 気象・海象情報を入手しましょう。
3. 船体・機関の点検しましょう。
4. 連絡体制の確保をしましたか。
5. ライフジャケットを着用しましたか。
6. 定員を守っていますか。
7. 海上交通のルールとマナーを守っていますか。
8. 見張りの励行と自船の位置の確認していますか。



自己救命確保 3つの基本!



ライフジャケットの常時着用



携帯電話などの適切な連絡手段の確保



海のもしもは118番




水の事故ゼロ運動

Water Safety NIPPON

水と遊び自然を学び
水の事故から子どもたちを守る
全国運動にご協力ください。



Water Safety
NIPPON

水の事故ゼロ運動推進協議会

ウォーターセーフティー ニッポン 2010年3月24日設立

後援 内閣官房総合海洋政策本部・国土交通省・海上保安庁



印刷
 (株)ポートサイド印刷
 横浜市金沢区鳥浜町 16-2
 電話 045-776-2671
 FAX 045-776-2678
 URL <http://www.portside.co.jp>